夕刊
二月十五日發行
定價一ケ月金六十錢　郵送料金一ケ月金六十錢
日曜日祭日翌日休刊
磐城新聞社
福島縣磐城郡平町十字路
電話平一番
振替口座東京三〇〇五五番

生命を培へ

山崎義男

下

矢張り家庭の樣子、兒童を見た樣子など隱す所なく披瀝し訴へてこそ本當の信頼であり、時としては華々しい一職を交へるもかへつてそうした眞劍味の方が望ましいものであり、まことのものでもあります

更に兒童は道具や機械ではありません。偉大なる生命であります。從の虛榮心や家の名譽のために兒童の生命を殺すが如きことは絶對に許されません『上級學校に入れなければ、どうも近所手前、惡いし親類へも顏向けがならぬから、先生是非入れて下さい』といふやうな辯舌はその人の良心が疑はれます

飽くまで兒童の生命を培ふべく努力してこそ本當の親の使命です

家庭に於ける生命の培ひといふことは愛情が勝ちすぎて間々安易に馴れやすく時には涙をふるつて試練を與へる覺悟がなくてはなりません

學校と職業といふことが最近甚だしく叫ばれて、何所でも職業指導が重用視せられるやうになりましたが之は一方大なる進歩とも認められませうが、私は教育の墮落だと申したいものです。教育は過去に於けり一職を交へるもかへつて教育が實際上に役立たなかつた、もつと大きく言へば學校教育は社會人を作り得なかつたことを意味するものであります。立派なる教育は全人を作り得ぬ教育は全く無能とさへ言はれても仕方がありません

しかも之を職業的指導と云ふか如き姑息的手當をすることはやがての教育への大きな支障です（勿論、教育的に肯定出來得る職業指導方針を採つて居る所もありますが、全國小學校などで呼ばれるものはその大部分姑息的と言はざるを得ません）

是には兒童の父兄にも大いに責任があります。學校に對する考へ方が根本的に間違つて居ります『學校をもう少し餘分に出せば就職に便宜である』と云ひ『あの學校は上級學校の入學率がよいからあそこへ出さう』とか、全く打算的で兒童の個性など少しも省みません

そして一日も早く就職させることのみ考へて根本の人格養成といふことを忘却してゐます。世の上に立つ人が忌しい事實を投げつけることはかうした考へ方の表れとも言へます。實業學校以上の學校は就職學校ではありません。家庭では學校を出たての子供がすぐ役に立つと思つてはいけません。教育の種は十年後に或は廿年後に芽をふくもので一朝一旦にその効果の見らるゝべきものではないのです

定められた紙數が一杯になりましたから、後一言だけ附加へさせて頂きます。兒童を知るのは教師ですが兒童を育てるのは家庭であります

（完）

冬日邨居

蒼雲　小野勘平

歳華倏忽老紅顏
且處無聊普稿攔
占得田園瀟洒趣
寒林殘月鳥聲閒

春の惠み

德重千歳

寂しき曠野を
さまよひし巡禮の
哀れ果敢なき
そのさだめ

行く手に淡き
星影みつめて
人の世の長き
隱路に泣きし
雪の下ばにせし
若草かも

巡り來し春の陽に
甦れり
希望を花開き
小鳥は喜びを唄へり

冬海小旅

戸部曙歌

○松原の切れ目ゆはろか見し海の沖は綾雲茜そめたる
○黒原のつづく街道はづれて江名は近かきか夕潮どよむ
○疲れつつ夕着きしは五名の濱沖に灯すは漁りの舟か
○江名濱の淀む入り江に夕月は高く上りてを光りだく
○小名に立つバスの時間に間のあれば期せざる旅を家に電報を打つ
○バスの窓に見し海原は宵更けて月にしらじらしぶく潮騒

南洋の話

志摩毅

三

彼等は所謂成功と言ふものを誇らない。否、彼等は南洋に來たことそれ丈で幸福を感ずる國民だ、日本人らず甚だしい差別待遇を受けた。政治的支配者たる白人は非常な優越感を以て彼等に對したりしたのだ

例へば汽車、汽船は一二等に乘ることを拒まれ、劇場、ホテル、レストラン等に嬉しくなり、贅澤もし度くなるのは普通だ

けれど彼等支那人の鄕國日本に於ける生活に勝る生活を建設する事は中々難しい。だが成功すれば無上に上等の席を支那人に與へることを肯んじなかつた。それが今では南洋の經濟權を完全に握るに及んで、中國に政歩を固め、今日では白人と殆んど同等の待遇を得てゐるが彼等は今日我國が海外移民指導の第一信條としてゐる『移民地への同化』なんてことは頭から問題にしない。どんな片田舎に行つても凡そ人間の住んでゐる所には支那商店の一軒や二軒はあり、少し支那人の集團してゐる部落には支那寺院が見ゐ、支那學校があり、其處では支那服を着た子供と支那本國で見るのと少しも違はない格好の支那人先生が馬來語や和蘭語は少しも知らず、たゞ支那語だけで授業してゐる。

（完）

黄金魔刀

（76）高桑義生作　樋口悅也畫

同志（一）

大阪は天下の台所といはれたが、其大阪の臺所は安治川口だ。安治川は大阪の海の關門で、陸上よりも海上運輸の發達してゐた當時だから、まさにさうあるべき理窟だ。諸國の廻船は悉く安治川口にあつまつた

いつも千石二千石の大船が艤を接し、帆柱が林のやうにならんで水上の大市街、夜となく晝となく、ひつきりなしに積み下される大貨物、それに動く人、人聲、物音—水も陸も沸きたつやうな雜沓だ。活氣あふるゝ人間生活戰線の尖端

さんらんとして朱金色の浪、まんまんたる潮にのつて、大小の船が相ついで入つて來た。何十反といふ帆が落暉にかゞやいて、何ともいへない美觀であつた

陸上は戰場のやうな忙しさを呈してゐる、だが、そんな中でも、大勢の中には暇な人間があるものと見ゐて、山と積んだ米俵のかげに、三人の仲仕が大地に胡座をくんで、先刻から妙な事をやつてゐた。三人が三人小石を並べたり、積んだり、崩したりしてゐる。何にものんきさうだが、かれらの顏つきを見ると、必ずしもさうではないのだ。ムツリと押し默つて、何か必死の事でもやつてるやうに眞劍だ。やはり通路であるから、さかんに人が往來する。中には立ち止まつて注意して見て居れば、それが何等かの意志表示であることはかうした考へ方の表れとも言へます。實業學校以上の學校は就職學校ではありません。家庭では學校を出たての子供がすぐ役に立つと思つてはいけません。教育の種は十年後に或は廿年後に芽をふくもので一朝一旦にその効果の見らるゝべきものではないのです

定められた紙數が一杯になりましたから、後一言だけ附加へさせて頂きます。兒童を知るのは教師ですが兒童を育てるのは家庭であります

（完）

のぞき込む者もある。が、大方一文二文の小博奕に熱中してゐるのでもあらうと詰めてゐる

まもなく船からあがつた旅客がぞろ〳〵とその脇を通つた。勿論そんな遊びに氣をとめる者はなかつたが最後に、一組の男女の旅人——男は編笠をかぶつた武士、女は手拭をあねさん冠りに合羽といふ道中姿。その女の方がはつとしたやうに立ち止つた

三人の仲仕はそんな事は知らない樣子で、相かはらず小石をならべる。其ならべ方が千變萬化で、しかもすばらしく敏速に行はれる。一人がある形を示す。そして崩すと他の一人がそれに答へるやうに別の形をつくる。博奕ぢやない。何かその形に意味がある。しばらくすると女はいつて、どういふ意味かポンと胸をたゝいたかれらはジッと女の顏も見詰めてゐる

『この荷物を、つい其處までお願ひしたいんですの』

ぢらりと女の懷から、濃紫の巾のはしがのぞいた。すぐそれは、ふくよかな女の胸に消えたが、二人の仲仕はそれを見ると目にやけた逞ましい顏に微笑を見せた。朗かな快心の笑ひである

女は大したかさでもない荷物を背負つてゐる

『ようがす』

中の一人が元氣よく答へた。立ちあがつた

『武州、おいらが御案内して來るぜ』

『少う』

『あとからおれも出かけようぜ』

二人は旅の男女を目送した。また、ぞろ上陸の旅客が行所の與力玉虫權六と目明し剃刀藤兵衛の二人がまつてゐた

廣告

磐城名物
靈峰羊羹
小川郵驛前
平屋賣店

社員採用
固定給參拾圓外手當支給
二十才以上五十五才迄
希望者は履歴書持參本人來談
平町鍛冶町十八
債券
公社債
現物買賣
擔保貸附
日本商事株式會社平支部

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院隨意）
（病室完備）

新年お目度うございます。
皆樣　新年會だと忘年會だと飲み過ぎたり食ひ過ぎたりして胃腸を害されませんか。少しでも左樣な徵候顯はれましたら明日と言はず……今すぐに
靈効散胃腸藥
を御試し下さい
大層能く効きます。外に三年五年と思ふ慢性胃腸病の全快した人も澤山あります。
胃潰病　心臟病　腦　痔も治ります。
御望みの方には御試用として見本藥を阿康藥局で差上げます。御遠慮なく御來局下さい。他店では見本藥差上げません。是非左記へお出で下さい
平町古鍛冶町縣社ノ下
處方箋調劑所
阿康藥局
定價（八分五十錢　二十分壹圓）
電話四四番　振替口座東京三〇〇五五番
御子樣には小兒靈効散があります

產婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

贈答物に
鰹節
鹽鮭
日華生命保險株式會社平代理店
宍戸屋商店
平町四丁目
電話（鹽干部）二一五番（鮮魚部）四〇七番

五十嵐產婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士五十嵐雄二
電話三七〇番
（入院應需）

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
電話九二五番
院長　醫學士　金森五郎
入院隨時

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

ぎつねや
平町公園下
桑原柔道整骨院
電話六七四

外科、內臟外科
エツキス光線科
院長　安齋徹
新設……產婦人科　醫學士　黑澤廣
平町田町
入院隨意
安齊醫院
電話四七五番

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備
（電話一二九）

けふ選肅婦人强調日

各地思ひ〳〵の運動

平町は祈願祭と座談會

今十五日は選擧肅正婦人强調日—私たち婦人が內助の力によつて肅選有終の美を期しませうと愛國婦人會平町分會では他婦人團体と合同の下に午前十時から縣社子鍬倉神社で祈願祭並に講演座談會を開き、又赤井並に湯本兩分會も一齊に立つて肅正印刷物の配布と共に投票場へは國旗章を胸に街頭或は諸集合に宣傳頒布げる等肅正運動の最後を飾るに相應しい催しのかず〳〵を實施した

月六日の地久節奉祝の催しとして當日婦人會、女子青年團等と會同、縣社子鍬倉神社前で式典を擧げ終つて婦人愛國行進を行ふ外縣の方針にならつて同日にふさはしい催しを考究中である

緒形書伯書會 青沼平町長柴田平署長の贊助を受けた緒形月山書伯の書會は二十三日玉川村小瀧鑛泉で開くが現在申込者五十餘名に上つてゐる

聯合農業倉庫設立か

本郡で新に二ケ所認可

氣運漸く濃厚となる

縣下の農業倉庫網もやや〳〵普遍化しつゝあり現在百二十有餘の農業倉庫に加へて十二日更に本郡の左の二倉庫が經營を認可されいよ〳〵聯合農業倉庫設立の氣運が濃厚となつて來た

△高久信販購利組合（五十四坪、收容量玄米四千三百二十石）△夏井信販購利組合（二十一坪、收容量玄米千七百石）

「一票」投必ず

二月二十日！

平町各小學校で

書方作品により運動

選擧肅正運動最後の一とふんばりは明後十七日の棄權防止運動——平町各小學校では再復兒童を動員しての運動を考究した結果、書方作品によるそれを左の揮毫文字により製作せしめ何れも當日各家庭の神棚に貼付掲示することになつた

尋一—センキヨ日二月二十日 尋二—せんきよ日二月二十日 尋三以上—必ず投票二月二十日

勿來女青 勿來町女子青年團 神札配布

空に大凧

勿來の肅正運動

勿來町では清き一票の行使徹底を期すため此程『一票報國選擧肅正』と大書した壹一壹じき壹もある大凧を作製毎日役場の傍から町の上空にあげて物凄い肅正の〝〟うなりに町民の注意を喚起

あす五ヶ所で

鈴木派最後の舌戰

物江黨務委員長來援

第三區政友會公認候補者鈴木派では明十六日左記五ヶ所に於て最後を飾る演說會を開く、辯士は縣政友會支部黨務委員長物江浩氏の外前縣會議員田子健吉、縣會議員遠沼龍輔、元代議士安島重三郎、山崎登、候補者鈴木辰三郎の諸氏

奈川縣鎌倉町數江合名會社木派では明十六日左記五ヶ所に於て最後を飾る演說會を開く、辯士は縣政友會支部黨務委員長物江浩氏の外前縣會議員田子健吉、縣會議員遠沼龍輔、元代議士安島重三郎、山崎登、候補者鈴木辰三郎の諸氏

正午大日本炭鑛劇場 午後二時好間村第一小學校 三時內郷第二小學校 六時同第三小學校 同平町聚樂館

石炭試掘許可

埼玉縣浦和町星野新吉氏出願の川部、山田、田人三村に跨る二十三萬四千坪、神

スキー大會

營林署員出場

今十五日から二日間岩代熱海で行はれる縣主催のスキー大會に平營林署德永、新井の兩君が三十キロと四十キロの二種目耐久レースに出場奮鬪してゐる

平町愛婦の地久節奉祝

縣社で式典擧行

平町愛國婦人會分會では來十五日第二回以後の同競技に科七犯吉川幸太郎（四九）が泥酔の兇器を持つた男をしゝぞけんとして了つた傷害致死事件は今十五日午前十時半から平支部で中島裁判長係り小林、香西兩判事陪席、氏家檢事關與、千葉（官選）辯護士立會、磐女四年生約百名其他滿員傍聽裡に公判開廷、事實審問に於て幸太郎は毆打した場所に就いて幾分陳述を飜す所あつたが大体全部を肯定したので辯護士から現場の檢證を申請し

圖畫コンクール

郡第三區では既報傭へ且つ成績向上を計つて

の如く今月下旬尋五以上兒尋四以下のコンクールを行ひ磐女中西教諭を招き審査開くが、平第二校では今十

第三次兎毛皮納入

本郡から千枚移出の豫定

縣農會斡旋による第三次陸京濱間の輸出商に斡旋する軍被服本廠に納入する兎毛皮八萬枚は既報の如く同廠の好意により追加が認可せられ十四日より十七日まで福島市誠一倉庫に於て本廠より原一等主計、檢査員山田、谷澤兩技手、村上陸軍書記の四名が來縣施行するが納入檢査の施行に先立ち泉山縣農會技師並に木村技手他關係職員が地方に出張納入兎皮の下檢査及び取纒めを行つた、今回の納入は最に一月三十一日附を以て同廠の注意書あつた爲め不自然なる火力乾燥を絕對に排し、縣農會指導による自然乾燥並に火力乾燥を嚴選し好成績を納めるべく努力した、本郡の納入豫定數は一千枚であるが本縣檢査官よりはねられたもの及び最に縣農會技師の檢査の結果不合格となつた兎毛皮は

內郷の傷害致死公判

當時內郷村宮字代六九居住

批評を行つた

落ちぶれの身に

温い救ひの手

昨夕湯本驛內の人情美談

風寒い昨夕六時頃湯本驛の片隅にすくだまつて物思ひに沈んでゐるみすぼらしい五十男あるを平署吉田巡査やう』と五十錢玉を與へた上何かよい住み込み口を見つけてやるから明日自分の家に來いと名刺を與へ立去つたのでこの溫情に長松もしばし感涙にむせんで粟崎氏の後姿をいつまでも見送る

人絹會社役員粟崎留治（三三）氏がこれを耳にして非常に同情し『溫い飯でも食べるが發見事情を訊くと、この男は双葉郡大久村竹尻生れ內山長松（四九）

親兄弟もない孤獨の身に鞭打つて若い頃上京したものゝ思ふやうにならず遂に二、三年前から南會津田島の在で炭燒き人夫に身を落し辛じて生計をたゝゐたが、昨今の大雪では仕事も出來ずそれと云つて落ぶれの身を故郷にさらす事も出來ず炭燒量氣を唯一の望みに徒步でやうやく湯本驛迄辿りついたものゝ空腹と寒さのため思案にくれてゐたもののと判明

農林省から依頼の鳥獸類習性調査

目下平營林署で急ぐ

農林省山林局長の依頼にかゝる鳥獸類の習性調査は平署委員一同が各方部に分れて實收を調査の上土地補償價格を決定して整理する方針に決まつた

縣下の最高齢者として從來幾度か表彰を受けてゐた勿來町大字關田字南町山名つゐた爲め思案にくれてゐたものゝ中昨十四日午前十一時頃眠るが如き大往生をとげた

行年百九才（文政十一年

山名つる媼逝去す

縣下の最高齢者だけに

各方面から惜しまる

生）老齢の身でありながら四、五年前迄若い衆と共に仕事をしてゐた壯健さ、無口で寫眞嫌ひが有名で一般からその死を惜しまれてゐる

藤原川延長工事

更に三百米施行

藤原川改修の十年度工事は磐崎村大字白鳥地內蟹打橋附近より上流二百米を行つたが尙二千餘米を施行せね町南墓道ば降雨毎に氾濫してその被害も少くないので平土木監督所で奔走の結果、更に改修地域より三百米（兩岸）を決定、縣土木課金澤技師が工費二萬圓で施行する事に決定、縣土木課金澤技師が出願の平窪、神谷兩村の六所に於て最後を飾る演說會を開く、辯士は縣政友會支部黨務委員長物江浩氏の外前縣會議員田子健吉、縣會議員遠沼龍輔、元代議士安島重三郎、山崎登、候補者鈴木辰三郎の諸氏

正午大日本炭鑛劇場 午後二時好間村第一小學校 三時內郷第二小學校 六時同第三小學校 同平町聚樂館

今と昔選擧話

裏板の穴から投票覗き

草鞋穿きの買收行脚

選擧とは選擧人團が集合制國家機關として他の國家機關を任命する行爲である

（森口博士）

選擧人團の選任も國家機關の行爲である、卽ち選擧の主体は國家それ自身であつて、一定の資格による選擧人團は國家機關として公務を執行するもの

セオリストと云ふ所謂選擧理人を選任するものでなく（田所輝明）

選擧とは一定の資格を有する者が一定の形式に從つて一定の目的の爲に

ので個人として自己の代之を實踐する事を先決とせねばならない。小伜が書いて神棚に貼り下げたお清書にも肇蹟覺束無い乍ら『報國一票』とあるではないか如月の寒風すさぶ街を挾んだ染め抜きの横斷幕、板塀の貼り紙等、等、世に擧げ肅選の一色に塗り潰された形である

×

これはずつと以前平町に程近き或る農村に行はれた擧實で、今から云へば寧ろナンセンスに近い選擧今昔譚であるが

——或る方法で有權者間に行はれた話

——或る方法で有權者間に行はれた話

特定人を選擇指定するを云ふ——

擧にならう

×

雖然、今の人には『選擧とは何ぞや』を知るよりも昨今旋風的勢ひを以て全國を蔽捲して居る『選擧肅正』の正体を把握し而して

を縱横斷した×派では、果して有權者の大部分が自派に投票するかどうかを確むる爲、同志の一人が選擧場の裏板に潛み、節穴から何人に投票するかを瞰下し、その足らざる分を開函前に大膽な手段でスリ替へ豫期通り絕對多數の投票を獲得したいふ

次に前々回の總選擧當時隣縣某郡で實際出つくはした事實で、海沿ひのある村落の腰掛茶屋に少憩中に出た話

哑えた鉛豆煙管の吸殼をポンと叩いた主人の老爺徐ろに

『今度は未だフダ（投票）買ひに一人も來ませんて』

と語り出した、聞けばこの地方には選擧毎に『フダ買ひ』と稱する買收專門の人間が入り込み殆ど公然に軒並みに買ひ歩いたもんだといふ

×

それから燕去雁來僅かに十年足らず。そこの村の裾示場にも恐らく鮮紅の日の丸に選擧肅正と大書せるビラが儼然と貼り出されてある事だらう。御時勢も變つたもんではある

▽……△

△——▽

父危篤すぐ歸れ

僞電報を使つた巧妙な詐欺手段

泥酔の上平町南町カフエーナナに至り酒三本を呑んで十圓札で釣錢を貰ふとしたが釣がないと云ふので之を受取りそのまゝ一と廻入り

した處十圓札の貰つたのをトント忘れてしまひ『先にやつた十圓札を返してくれ！』と云ひ出した事から一と悶着、この裁きを平署に特ち出したが署內で調べた處お本人は實際持つて居らぬので目下同署でこの十圓紙幣の行方を捜査中

十圓紙幣の行方？

カフエーで悶着

內郷村宮磐城炭鑛坑夫草野內郷村大字宮料理業藤沼マツノ方抱酌婦千葉市寒川九五九生れ八十吉長女櫛田吉四郎（三六）は昨夜十一時頃

誤叱府

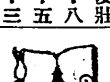
泣くも笑ふもいよ〳〵中四日に迫つた決戰の日を前にして今日この頃は何處へ行つても選擧の話しだ、處が『肅正徹底』をスローガンに連日不眠不休の活動を續けてゐる平署には最近盜難屆がブツツリ杜絕えてゐる、同署管內と云へば東北でも一二を爭ふ程の犯罪の多い處なのでどうしたものか？と訊いて見ると『泥棒する位の奴は頭がいゝので警戒嚴重と見て手を出さんのだよ』と腕を撫してゐる——肅正はこゝに迄徹底してゐるんデス

檢數が增加する見込み

天氣豫報

今晚は北の風晴、明日は西北の風晴一時曇

小名浜測候所觀測



舊正月二十五日 新二月十七日 日曜 己巳 先勝 平 危宿

▲一白 勇奮は成功の道路を開たくするに至るの吉日▲二黑 內外共に間違ひの起り易き日常業をゆるべし▲三碧 才智に誇らず光を包めば平安を保つべき日▲四綠 岐路に迷はず直進せば目的地をふむ事早し▲五黃 小事たり共油斷の不安なく志す所に直進すれば成就す▲八白 速やかとして進歩せざるも心落ちず勵むべし▲九紫 失ふ所小にして得る所大なる日吾郎が肝要

十六日（小名浜測候所調査）

日出 六、二五 日出前 〇、四一 日沒 五、一八 月沒前 一〇、三四 滿潮 前八、〇〇 干潮前 一、二五 後 四、二五

十七日

日出 六、二四 月出前 一、四〇 日沒 五、一九 月沒前 一、二二 滿潮 前八、五五 干潮後 五、五五

すな苦勞心配起り易き日▲六白 なりを慎めて敵のきよをつく戰闘準備に宜し▲七赤 攻防共に慎重たるべき日機に應じ處分すべし▲八白 おごる平家の末路は悲慘なるが如し質素專一▲九紫 天佑なかうむり思ふ事成就疾なき日精勵すべし

平町壯丁

平町の十一年度壯丁は本籍百六十八名、寄留者五十五名、計二百二十三名で十年度に比し八名の增であるが尙今後寄留者の受

新車披露

スバラシイ乘心の良い一九三六年式流線型新車入車致しました。

商用に！、旅行遊山に！、婚禮！

是非御利用を願ます。

平町三丁目

セリザワタクシー

電話三九五番

政友會公認

衆議院議員候補者

鈴木辰三郎

政見發表 演說會

日時 十六日 午後六時

場所 聚樂館

（責任者 遠沼龍輔）

辯士

政友會縣支部黨務委員長 物江浩

縣會議員 遠沼龍輔

前縣會議員 田子健吉

候補者前代議士 鈴木辰三郎

星一

政見發表 演說會

日時 二月十五日 平町

場所 午後六時 聚樂館

辯士 角岡知良 花井忠 宮本貞一

平町四丁目五八 鈴木長三郎（責任者）

諸判定應需

東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 職業かへなど志す可らず 普狀に滿足すべし▲二黑 がん前の小利に迷はず遠大の計を立つべき日▲三碧 機の熟せざるを思ひて隱忍するが吉焦るな▲四綠 起ちて功を急がんより元氣を養ひ時を待て▲五黃 人と交りてけんじやうたるべし自ら引立を受けん▲六白 げうかうを願はず自力を以て努力功を奏すべし▲七赤 何等

舊正月二十四日 新二月十六日 日曜 戊辰 赤口 滿 虛宿